

第 10 学年 ACWY 群髄膜炎菌 学校予防接種 2018 年プログラム

髄膜炎菌感染症とはどんな病気ですか？

髄膜炎菌感染症はまれな病気ですが、生命を脅かすことがあります。脊髄および脳を覆う膜や血液に病原菌が感染して起こります。

抗生物質で治療できますが、進行が非常に速いので、髄膜炎菌感染症の症状に気づいた人はすぐに医療機関に相談することが大切です。

髄膜炎菌を鼻やのどの中に保菌し、それでも発病しない人が、いつの時点においても健常者の 10 パーセントほどいます。

髄膜炎菌感染症はどのようにして感染しますか？

髄膜炎菌は呼吸器からの分泌物(咳、くしゃみ、キス)によって伝染します。この菌は体外では数秒以上生きることができません。

この病気はほとんどの場合、かなり密な接触のある人だけにうつります。例えば、同一世帯の住人、性行為の相手、4 時間以上継続してデイケアで一緒に過ごす子どもなどです。

西オーストラリア州保健省は、なぜ 10 年生を対象に予防接種プログラムを実施するのですか？

最近、「血清群 W」という特定の種類の髄膜炎菌を原因とする感染症が増加しています。

髄膜炎菌感染症はどの年齢層でもかかる病気ですが、青年期では髄膜炎菌保菌率および感染症罹患率が特に高く、この年齢層が、幼児など感染リスクの高い人たちにうつしてしまうことがあるのです。

10 年生に予防接種をすることが、他の人々への伝染を抑え、より広い地域社会での感染予防につながると期待されています。

どのワクチンが使われ、どれほど効果があるのですか？

ACWY 群髄膜炎菌ワクチンが使われます。このワクチンは髄膜炎菌のうち 4 つの血清群 A、C、W、Y について予防します。学校接種プログラムで使用されるのは、オーストラリアのグラクソ・スミスクライン社が供給する Menveo[®]とファイザー社による Nimenrix[®]という結合ワクチンになります。

これらのワクチンは安全で効果的です。ACWY 群髄膜炎菌の予防接種プログラムは、英国では 2015 年から青年期 13~15 歳、米国では 2005 年から青年期 11~12 歳を対象に実施されていますが、特に大きな懸念は報告されていません。

ワクチンは通常、単回接種として提供されますが、この病気にかかるリスクが高い人、この病気がよくみられる地域に旅行する人には追加接種が推奨されています。ACWY 群髄膜炎菌ワクチンは青年期において 80~85% の効果があることが研究でわかっています。

このワクチンを受けるべきではないのはどんな人ですか？

次にあてはまる場合は、ワクチン接種の担当者にお知らせください。

- **生命を脅かす重篤なアレルギーがある。**
前回の ACWY 髄膜炎菌ワクチンの後で生命を脅かすアレルギー反応があった場合、または、ワクチン成分のどれかに重篤なアレルギーを持っている場合は、このワクチンを受けるべきではありません。ワクチンの原材料については提供機関におたずねください。
- **妊娠している、または、授乳している。**
妊娠中や授乳中の女性には通常、髄膜炎菌予防接種は勧められませんが、临床上必要である場合は接種を受けることが可能です。妊娠している可能性がある人や授乳している人は、かかりつけの医師と詳しく相談してください。

ワクチンにはどんな副反応がありますか？

ワクチンも含め、どんな医薬にも、一般的な有害反応が出る可能性はあります。そのような反応は通常軽度で、自然におさまります。まれではありますが、重篤な反応が出ることもあります。ワクチンが重度の損傷や死亡の原因となる確率のごくわずかです。ワクチンが原因で髄膜炎菌感染症にかかることはありません。

よくある有害事象は、注射を受けた部分の痛みや赤みや腫れ、発熱、いらいら、眠気、食欲減退、頭痛、発疹、吐き気などです。しかし、よく知られる重篤な有害事象が起こることはほとんどありません。

ワクチンの安全性は継続的に監視されています。詳しい情報は、www.tga.gov.au または、www.immunise.health.gov.au をご覧ください。



この文書は、障害のある方からのご要望により、別の形式でご用意できます。

Communicable Disease Control Directorate 作成
© Department of Health 2018

本書の著作権は、別段の記載がない限り、西オーストラリア州に帰属します。1968年著作権法の規定により許可されている個人的な研究、調査、批評または評論を目的とする公正な利用を除いて、どのような目的であれ、西オーストラリア州の書面による許可を得ずに、いかなる一部も複製または再利用することはできません。

もし重篤な反応があったら — どうしたらわかるでしょうか？

重篤なアレルギー反応の兆候、高熱、異常行動など、何か心配な点はないか気をつけておきましょう。重篤なアレルギー反応の兆候は、じんましん、顔やのどの腫れ、呼吸困難、心拍数増加、めまい、脱力などで、通常ワクチン接種後数分から数時間以内に現れます。どんな反応でも重篤であれば、救急車を呼ぶか最寄りの救急病棟に行ってください。

どうしたらよいですか？

微熱や痛みを軽減するにはパラセタモールが役立ちます。注射を受けた部分の痛みを和らげるには冷やした濡れ布をあてるのもよいでしょう。重篤と思われる、または、予想していなかった反応があった場合には、直ちに医療機関に相談するか、地元の救急病棟に行ってください。

または、ヘルスダイレクト・オーストラリア(healthdirect Australia)電話番号 1800 022 222 にお問い合わせください。

反応が出たら西オーストラリア州ワクチン安全監視(Western Australian Vaccine Safety Surveillance、略称 WAVSS)に報告しなければなりません。予防接種提供機関がレポートを提出することになっていますが、WAVSS サイト www.wavss.health.wa.gov.au で、または、電話番号 9321 1312 (8.30am-4.30pm 月～金) にかけて、ご自分で報告することもできます。

より詳しい情報

髄膜炎菌予防接種について何かご質問がありましたら、ヘルスダイレクト・オーストラリア(healthdirect Australia)電話番号 1800 022 222、または、同意書類が入っていた封筒の裏面に連絡先として記されている地元の提供機関にお問い合わせください。